



診察室における言葉の玉手箱

【認知症編】

～第5回～

川崎幸クリニック院長
杉山 孝博

5. 「食べた直後なのに、食べていないと要求します」

医師「食事は摂れていますか？」

患者「はい、何を食べてもおいしいです。食事が待ち遠しいくらいです」

医師「食欲＝生命力と言います。おいしく食べられるのは健康の証拠ですから、元気でよろしいですね。では、6週間後に受診してください」

《患者が出て行った後、家族と医師との対話》

家族「本人はあのように言っていますが、異常な食欲のため私たちが振り回されています。」

先日も、テーブルの上においてあったお菓子の1箱と山盛りのミカンをごっそり食べましたし、食べた直後なのに、“まだ食べていないから、早くご飯を用意しろ”“食事をさせないで俺を殺すつもりか”などと言って、毎回、食べ物を要求します。“今食べたばかりでしょう。これ以上食べると、おなかをこわすから駄目よ”“夕方まで待ちましようね”と説明しても、本人は納得しないばかりか、ますます興奮するのです」

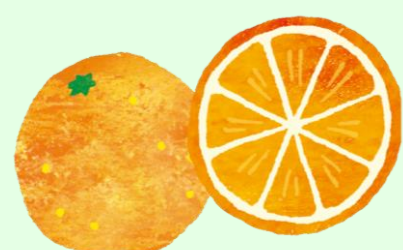
医師「“過食”の時期によく見られる認知症の症状です。このような症状に振り回されている介護者は少なくありません。では、どのように理解したらよいか考えてみましょう。」

過食の時期は一人前を食べても空腹感が残っていて、しかも細かい献立の内容を忘れるだけではなく、「食べたこと」全体を忘れてしまいます。“記憶になれば事実ではない”、“本人の思ったことは本人にとっては絶対的な事実である”という認知症の特徴により、“まだ食べていない。おなか为空いてたまらないのだから、すぐ用意しろ”と言って、食べ物を要求するのです」

家族「どのように対応したらよいのでしょうか？」

医師「認知症の初期であれば、食べ終わった食器を見せながら、“おいしいと言って食べていたでしょう”のように説明すると納得する場合があります。この時期には、食べ終わっても食器をすぐに片付けないことが必要です。」

それでも納得しない場合には、“食べていない”という本人の思い込みを認めた上で、“今、準備しているから少し待っていてね”“おなかですいたのね。おにぎりがあるからこれを食べてね”と対応した方がよいでしょう。おにぎり、パン、バナナなどを予め用意しておいて、タイミングよく勧めるとうまうまいきます。“今食べたばかりだから駄目よ”などと否定した挙句、しぶしぶ出すのではうまうまいきません」（つづく）





診察室における言葉の玉手箱

【認知症編】

～第5回（つづき）～

家族「おにぎりやパンだけでは本人が納得しない場合にはどうしたらよいでしょうか？」

医師「そのような時には、もう一人前を食べさせてもよいと思います。この時期には、原則として二人前を一度に食べてもおなかを壊すことも体重が増えることもないので、安心して食べさせればよいでしょう」

家族「本当ですか？私なんか、たくさん食べるとおなかが張って苦しくなりますよ。また、体重が増えないって本当ですか？」

医師「不思議に思えるかもしれませんが、過食の時期の認知症の人を観察しますと、①動きが非常に活発である ②大量の排便をする という点に気が付きます。エネルギーの使い方が多くて、しかも栄養の吸収効率が悪いと考えれば、大量に食べる食べ方は異常な食べ方ではなく、必要なカロリーを摂取しているにすぎないと考えられるでしょう。

いずれにしても認知症が進行して体の動きが少なくなると、食べ物をもてあそんだり、口の中に溜め込んだりするようになって、確実に食べなくなります。さらに進行して寝たきりになると、物を飲み込むことが困難になり、食事の介護に1時間も2時間もかかるようになります。このような変化をみますと、身体の動きに合った食事のとり方をしているわけで、“認知症の人の食生活は極めて正常である”と言えるのではないのでしょうか。

寝たきりになって食事の介助に限らず、排泄・清拭・着替など全面的な介助が必要な状態になってから、介護者の方は、かつての過食のころを思い出して、“あのときは、自分一人で食べてくれたし、服を着ることも風呂に入ることも自分でできていた。病気もしなかった。よく考えればあんな介護の楽なときはなかったな”と思えるのです。

家族「なるほど、そのような理解の仕方もあるのですね。安心しました。でも、食べさせるにしても、限度があるでしょう」

医師「もちろん、過食の時期の認知症の人が要求するままいくらでも食べさせてもよいとは思っていません。①まとめて出さないで小分けにして出す ②かさがあってカロリーの少ない献立を工夫する ③趣味や昔話など、関心のある話題を取り上げながら食事を進めていく 等の工夫は必要です。それでもなお食事の要求が強ければ、割り切って食べさせてもよいと思うのです」

